

第2回鳥羽伊良湖航路対策協議会の結果概要

(1) 伊勢湾フェリー・近鉄・名鉄からの状況等の説明

- 福武伊勢湾フェリー(株)代表取締役社長、西本近畿日本鉄道(株)グループ事業本部事業管理部長、大竹名古屋鉄道(株)関連事業部監理2担当部長から、それぞれ今回の判断に至った経緯、現状、現時点での会社としての考え方等について説明。

【説明の概要】

- ・ 伊勢湾岸自動車道の開通区間の延伸、景気低迷による旅客の減少、燃油費の高騰、さらには21年3月からの土日祝日の高速道路料金の上限を一律1,000円とするETC特別割引の影響で、利用客が激減した。
収支状況は、平成18年度以降債務超過額の累増が続いており、このまま事業を継続すると今後もさらなる損失の拡大が予想されるため、事業の廃止を決定した。
- ・ 航路廃止届を提出後は、従業員への説明など、清算に向けた手続きを進めている。
- ・ 9月30日に航路を廃止し、会社を清算することは3社内での決定事項であり、現時点での変更はない。

(2) 意見交換

- 伊勢湾フェリー(株)による運航継続や、新たな運航事業者への円滑な事業継承に向けた条件等について意見交換。
- 協議会として、今後、航路廃止された場合の地域への影響分析、本日の意見交換を踏まえた航路存続のための条件整理を早急に進め、対応方策を検討。その際、適宜、本日出席の3社との協議を行っていくことを確認。